

中国での臓器移植濫用の証拠陳述書

(「中国での良心の囚人からの強制臓器収奪に関する民衆法廷」への提出文書)

デービッド・マタス

私はカナダのマニトバ州ウィニペグの弁護士として、主にカナダの保護を求める難民申請者のために仕事をしている。弁護士生活のほとんどの時間をこの仕事に費やしている。

私の依頼主は人権侵害から逃げてきた人々なので、中国を含む多くの国々での人権侵害の状況をよく知るようになった。保護申請を助けるためだけでなく、逃亡の原因となった人権侵害そのものを撲滅するために、できる限りのことをしている。人権の分野で幅広く、調査、執筆、擁護に従事している。

アニーという仮名の女性が2006年3月にワシントンDCで、前夫が2003年から2005年にかけて遼寧省瀋陽市の蘇家屯病院で法輪功の学習者から角膜を摘出していたと公に証言した。他の医師は他の臓器を摘出した。法輪功の学習者は臓器の摘出により殺害され、遺体は焼却されていた。中国政府はアニーの証言を否定した。

ワシントンを拠点とするNGO「法輪功迫害追跡調査国際組織」が私とデービッド・キルガーに、アニーの証言の信憑性を調査して欲しいと依頼してきた。人権侵害に関する仕事を手伝って欲しいと言われることはよくあるが、この依頼は困難を伴い、通常のものとは異なった。

法輪功は精神性を基盤とする一連の動作から成り、1992年に李洪志が伝えることで始まったことは知っていた。当初は中国共産党に奨励されていたが、1999年以降、人気を集めすぎたため抑圧されるようになったことも知っていた。しかし、この抑圧とは、臓器のために殺害されるという特殊な迫害を意味するものではなかった。

NGOからは調査の依頼だけで、データも資金も指示も受け取らなかった。アニーの話は難題を提示していた。アニーが真実を語っているか、どうして分かるのだろうか？ アニーの証言が事実であることを証明するだけでなく、アニーの証言が事実でない場合にどのように証言を反証するかという問題もあった。

アニーの証言は、犠牲者は全て殺害されているので犠牲者と面談することはできないことを意味した。遺体は焼却されているので、死体解剖もできない。犯罪現場、つまり手術室は、施術後すぐに清掃されるだろうから、現場検証もできない。記録を入手することもできない。記録はすべて中国の病院・監獄・強制労働所・留置所のものであり、一切公表されていないからだ。唯一の証言者は加害者だが、自分の犯した罪を公に告白することはまずないと思われた。

アニーの証言の実証が難しいということは、人権擁護のNGOや政府間機関、メディアからの対応が期

待できないということだった。人権擁護の NGO には調査能力はあるが、キャンペーンのための機関であり、実証しやすい事例を好む。調査しやすいだけでなく、キャンペーンしやすいからだ。政府間機関には調査能力はほとんどなく NGO の調査に頼る傾向がある。メディアは読者、視聴者に合わせて突発的な報道で終わってしまう。簡単に短時間で語れるものでなければ、通常は全く触れない。

証拠のほとんどない状況での人権侵害の主張に取り組むことには慣れていた。難民を扱う弁護士の日常の仕事だ。難民としての保護申請者は、着の身着のままの姿で私の事務所に来て、恐ろしい話をする。彼らは、何が起こったのかを証言できるという面で優位な立場にはあるが、経済的に富裕な国家を求めて話を作り上げているのではないかと疑う猜疑心の強い裁判官に直面する。

申請者の話は真実だろうか。偽造だろうか？ このような問題に答えることは、アニーの話の信憑性の査定と変わらない。

犠牲者もしくは代理人が私のところに来て、国外の人権侵害を撲滅するための助けを求めた場合、私はメディアや地元の議員、人権擁護団体、国連の人権擁護組織を紹介する。しかし、アニーの話は、このように取り扱うことはできなかった。何か成されるのなら、デービッド・キルガーと私が自分で行わなければならない。

それでは何をしたらよいか？ 証拠の手がかりを想定していった。全ての疑惑の真偽を確定するものだ。構築にあたり、下記の4つの方針を立てた。

- 1) 噂や人聞きに頼らない。また聞き情報は退けておく。
- 2) 加害者からの情報に依存しない。

これまでの仕事で、様々な状況にもよるが、加害者が証言を申し入れる事例もあった。このような申し入れは全て退けた。別の状況ではあるが、加害者の情報は自己の無実証明に過ぎず信頼はおけなかった。

- 3) 自分が目にする情報は、他の者が目にするものである。

真偽を確定する我々の作業が終わったあとでも、我々の結論に頼るべきではない。誰でも我々が手にした情報を読み、自分なりの結論を出せる。

- 4) 部分的な証拠のみに基づいて結論を出すことは絶対にしない。

結論に達する前に全ての証拠を考慮することを意図した。

結論は法輪功学習者が臓器のために殺害されているというものだった。この結論の基盤は、著書、記事、調査を投稿したネットサイトで発表された。この帰結が導かれることとなった証拠の一部を下記に挙げる。

- 調査員が、移植手術を必要とする患者の親戚として、中国全域の病院に電話を入れ、法輪功は気功動作を通して健康になるので、学習者の臓器も健康であろうとして、法輪功学習者の臓器が売りに出され

ているかを尋ねたところ、中国全域にわたり認められた。テープに録音され、書き起こされ、翻訳されている。

• 拘束され、留置所から出て、中国から出た法輪功学習者および法輪功学習者でない者が一律に下記の証言をしている。

- 1) 法輪功学習者は拘束中に、系統的に血液検査を受け、臓器を検査されていた。他の拘束者には行われなかった。血液検査と臓器検査は法輪功学習者の健康のためではありえない。拷問を受けていたからだ。しかし臓器移植には欠かせない検査である。
- 2) 北京の天安門広場に中国全域から陳情に来た法輪功学習者は、系統的に逮捕された。身元を明かしたものは出身地に戻された。そこで彼らに関与する者は、法輪功の活動に関わっていることが示唆され、罰せられた。

地元の人々に危害が及ばないように、多くの法輪功学習者は身元を明かすことを拒否した。その結果、当局にとって身元不明の多数の法輪功学習者が拘束されることとなる。また、誰も彼らがどこにいるかを知らない。中国人の標準からみても、これらの拘束者は全く無防備である。これらの拘束者は、恰好の収奪できる臓器源となった。

- 3) 中国共産党は、長期にわたり継続的に、法輪功に対する嫌悪を扇動する辛辣な国内・国際での広報活動に従事してきた。この活動により法輪功学習者は、多くの中国人の前で阻害され、非人格化、非人間化されることを促進した。拘束する者にとって、法輪功学習者は人権・尊厳を尊重するに値しない非人間であった。

• 我々が面談した、中国に移植にいった患者が、次のように証言している。

- 1) 中国での移植手術の待機時間は数日から数週間。世界中の他の場所では数ヶ月から数年。死体からの臓器移植が短期間で行われるということは、移植のために誰かが殺害されていることを意味する。
- 2) 中国の移植はかなり軍事化している。臓器をすぐに供給できる病院は軍病院であることが多い。民間の病院でも、移植医は軍に所属するが多い。軍は監獄の看守と同様の環境を共有しており、民間の病院や民間の医師に比べて、臓器源としての囚人を獲得する準備が整っている。

中国では、軍は複合事業体であり、臓器の販売は主要な資金源である。我々が報告書で引用する前までは、軍病院のウェブサイトはこのことを自慢していた。現在はウェブサイトには掲載されていないが、独立した調査者が見ることができるよう当時のサイトは保存されている。

- 3) 中国での移植手術にはとてつもない機密性が伴う。医師名は明かされない。患者は自分の主治医

と共に中国に渡航することは許されない。2006年の報告者が発表される前まで、中国の医師たちは治療の内容と忠告を記した手紙を患者にわたしていた。我々の報告書が発表された後はこのような手紙は一切停止した。

- 移植濫用を防止するために設けられるべき基準や制度は、中国国内にも国外にも存在しない。国際的な臓器移植の濫用は、国際的な児童売春ツアーと同様に取り扱われることが理想である。治外法権の適用する犯罪である。しかし、現在のところ、このようには扱われていない。

一方で、法的に罰せられることのない臓器移植濫用が存在し、もう一方でこの濫用から大金を儲けることができ、さらには移植を切実に必要とする患者がいる。この組み合わせが、脆弱な立場にいる者の犠牲化を生み出す原因である。

- 法輪功学習者を臓器源としない限り、移植件数の裏付けはできない。中国政府が公式発表している移植件数は、個々の病院が報告している移植件数を表にして加算した実際の数字を遥かに下回る。公式数値を受け入れたとしても、中国は米国に次ぐ、世界2番目の移植大国である。

2010年まで中国は死後の臓器提供制度は設けておらず、今日でさえ、臓器提供数は比較的低い。2013年まで中国には臓器の分配制度は存在していない。臓器分配制度は、比較的低い数の提供臓器に限られ、囚人からの臓器は配給していない。生体ドナー源では、ドナーは親戚と限定されており、公式には奨励されていない。臓器を提供することでドナーの健康に支障をきたす可能性があるからだ。

中国政府は、臓器提供制度が設置されていなかったにも関わらず、当初、全ての臓器源は自主的ドナーであるという立場を取っていた。その後、中国での移植臓器のかなりの割合は囚人から来るものだと認めた。しかし、臓器源となる囚人は全て死刑囚であると主張した。法輪功学習者は社会秩序を乱すという刑期、もしくは何もしていないのに刑期を言い渡されてきた。

しかし、死刑を宣告され、処刑された囚人が、中国での移植件数の供給源となるには、かなり誇張された死刑者数の数・推定を遥かに上回る必要がある。さらに最近、死刑者数は下降しているが、公式の移植件数は2007年に削減したわずかの期間を除いて、平行線か上昇している。中国政府は国家機密として死刑者数の統計値を発表することを拒否してきている。

国連の拷問に関する報告官、国連の宗教への不寛容に関する報告官、国連の拷問禁止委員会は全て、移植件数と臓器源数の食い違いについて中国側の説明を求めてきた。良心の囚人以外には説明はつかない。